



2022.9.1 PRESS RELEASE 2022-01
なごや日本博事業実行委員会

名古屋城と熱田台地を結ぶ堀川を舞台にした現代アートイベント streaming heritage 2022 「ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ」開催します。

なごや日本博事業実行委員会は、2021年3月に開催したstreaming heritage 2021 spring、11月に開催したstreaming heritage 2021 autumnに続き、2022年11月にstreaming heritage 2022「ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ」を開催します。



2020年度より開催している「ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ」は先端技術・アート・地域文化（歴史・風土・自然）を組み合わせて、芸術文化による都市魅力の向上を図るイベントです。3回目となる今回は、名古屋城内、四間道、納屋橋、松重閘門を巡りながら、歴史と現代がアートによって交差していきます。また今回、一部の作品は、学生たちも制作に参加し、完成していきます。

名古屋台地と熱田台地のへりには、文化資源や観光資源がたくさんあります。名古屋城から納屋橋を経て宮の渡し、さらには名古屋港まで。これらの資源をひと続きに結んでいるのが堀川の流れ[stream]です。そこに現代アートが光をあて、名古屋の歴史・文化遺産[heritage]をリアルタイムに再生[streaming]する。それがストリーミング・ヘリテージの試みです。この流れは名古屋城を起点に電車でたどれば陶磁器の産地瀬戸にまで至ります。

他方で、ものづくり王国名古屋、同じ台地と海のあいだに根づいたデジタルメディア文化の流れ—名古屋城・白鳥公園・名古屋港を会場とした世界デザイン博に始まり、名古屋国際ビエンナーレ、artport/MEDIASELECT、電子芸術国際会議、世界グラフィックデザイン会議・名古屋 [Visualogue]、ユネスコ創造都市への加盟と続く—の再生でもあります。

ストリーミング・ヘリテージでは、アーティストによるインスタレーション、識者を招いて行うトーク、最先端技術を用いたパフォーマンスなどを通し、歴史と現在が相互に影響し合う、名古屋独自の文化芸術の魅力の世界に向けて発信する。それにより、社会経済活動再活性化へのきっかけにつながることを目指しています。

開催概要

streaming heritage 2022
ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ

会期: 2022年11月3日(木・祝)～20日(日) *期間中の金土日祝に開催
会場・時間:

***会場によって観覧期間・時間が異なりますのでご注意ください。**

- ・名古屋城 9:00-16:30
- ・四間道(伊藤家住宅、エスプラナードギャラリー) 11:00-19:00
*エスプラナードギャラリーは11/11～13の3日間のみ展示
- ・納屋橋(シャムズガーデン) 日没-20:00
- ・松重閘門(中川運河ギャラリー) 11:00-19:00
- ・熱田・宮の渡し *イベントに応じて

参加アーティスト

(*50音順)

エレクトロニコス・ファンタスティコス!

久保寛子(くぼ ひろこ)

近藤正勝(こんどう まさかつ)

斉田一樹(さいたかずき)+むぎばやしひろこ+三原聡一郎

人長果月(ひとおさ かつき)

藤本由紀夫(ふじもと ゆきお)

phono/graph(ふおの/ぐらふ)

三原聡一郎(みはら そういちろう)

ほか

*その他トークイベントも開催を予定しています。詳しくは Web サイトで発表いたします。

■企画体制

主催: なごや日本博事業実行委員会

【構成団体】 名古屋市、ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業実行委員会、公益財団法人名古屋まちづくり公社、名古屋商工会議所、中日新聞社

助成: 令和4年度 日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業（文化庁）

協力: エスプラナードギャラリー、サイアムガーデン、名城大学、名古屋学芸大学、ディーキン大学（オーストラリア）

企画体制: 秋庭史典、江坂恵里子、河村陽介、伏木啓、山田亘

■連携

今回、名古屋市と同じユネスコ・デザイン都市のジロング市からディーキン大学の学生達が制作・運営に参加します。ストーリーミング・ヘリテージと同時期に開催する、ほかの名古屋市内のイベントとも連携しております。名古屋の魅力が詰まっているイベントです。



■会場説明

◆名古屋城

1610年に築城が開始され、名古屋城には当時の最新の技術が注ぎこまれました。金鯱を頂く五層五階の天守は史上最大級で、他の城郭の天守に匹敵する巨大な隅櫓、広大な二之丸庭園、高い石垣と深い堀、堅固で巧みな縄張などを備え、近世城郭の完成形といえるものでした。1945年5月に起きた名古屋空襲により、建造物のほとんどは跡形もなく燃え尽きましたが、1952年名古屋城は国内屈指の城郭として国の特別史跡に指定されています。

【会場】 御深井丸、西之丸



名古屋城西之丸

◆四間道

四間道は1610年の名古屋城築城とほぼ同時期に開削された堀川の舟運を利用する商人の活動とともに発展したまちです。1700年の大火の後、防火目的に中橋から五条橋までの道幅を4間（約7メートル）に整備したことから、四間道と呼ばれるようになったといわれています。この界限には今も伝統的な建築物が多く残っています。

【会場】 伊藤家住宅、エスプラナードギャラリー



伊藤家住宅 (四間道)

◆納屋橋

名古屋城と熱田の海をつなぐ堀川には、江戸時代に架けられた7つの橋があります。納屋橋は、名古屋城築城とともに堀川が開削されたときに架けられ、付近の地名をとって名付けられました。江戸時代、全国有数の焼き物産地であった瀬戸の焼き物は、矢田川・庄内川などを通じて堀川の脇にあった尾張藩の御蔵（現在の天王崎橋、三蔵通付近）に集められ、検品された上で全国に出荷されていました。

【会場】 シャムズガーデン



エスプラナードギャラリー (四間道)

◆松重開門

堀川と中川運河の水位を調節する水路を閉じる水門として、1930年に建設されました。松重開門によって中川運河との連絡が可能となり、水運による物流軸として名古屋の経済・産業を支えました。陸上輸送の発達により船の利用が減少したため1968年に閉鎖されましたが、市民の強い要望により保存され、名古屋市指定有形文化財に指定されています。

【会場】 中川運河ギャラリー



納屋橋



松重開門

◆熱田・宮の渡し

現在の熱田周辺は、国道やビルに囲まれ海から遠く離れていますが、江戸時代の初め頃、東海道唯一の海上路であった宮の渡し前には伊勢湾が広がり、海運の拠点として栄えていました。寛永2年（1625年）には常夜灯が建てられ、船の出入り口の目印に。江戸時代以降、次第に新田として開発が進み、海は陸から離れていきました。その新田も今では工場や住宅地へと姿を変えています。

【会場】 熱田・宮の渡し公園

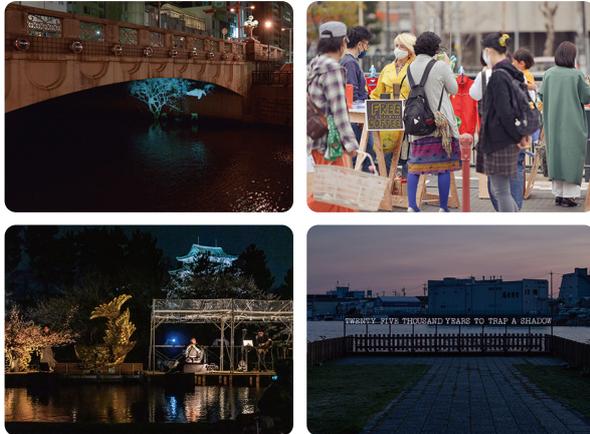


宮の渡し

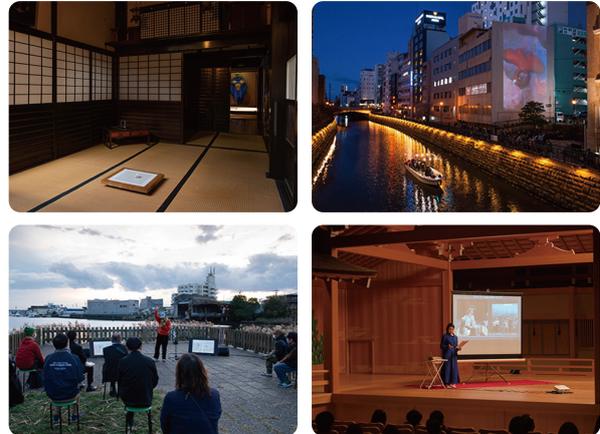
これまでの開催時の様子

2021年3月に開催したstreaming heritage 2021 spring、11月に開催したstreaming heritage 2021 autumnは、コロナ禍による様々な制限下ではありましたが、多くの方々に楽しんでいただきました。また、期間中は、ご来場いただくのが難しい方々に向けてSNSやオンラインでの動画配信を行い、名古屋の水辺に息づく伝統と新しい文化の融合を発信し続けました。

◆ streaming heritage 2021 spring



◆ streaming heritage 2021 autumn



■ SNSも随時更新中!

最新情報更新はこちらからもチェックできます。



Webサイト



Instagram



Twitter

■ 新型コロナウイルス感染症対策に関して

新型コロナウイルス感染症への対策を講じた上で実施いたします。ご来場に際しては、以下の点にご留意くださいますよう、お願い申し上げます。

- ・屋内や屋外のパフォーマンス・展示などに関わらず、ご来場の皆様にはマスクの着用をお願いします。
- ・手洗いと手指消毒、咳エチケットへのご配慮、社会的距離の確保にご協力をお願いします。
- ・各会場では検温を行います。37.5°C以上の発熱があると認められた際は、ご入場をお断りさせていただきます。
- ・混雑や人の密集を避けるため、各会場ごとに人数制限を設けています。混雑時には、お待ちいただく場合がございます。

お問い合わせ：なごや日本博事業実行委員会事務局

〒460-0003 名古屋市中区錦二丁目11-24 長者町コットンビル2A

TEL：052-232-7260

広報に関するお問い合わせ：press@streamingheritage.jp

